

絵葉書に見るむかしの千代田

今号では、戦前期に撮影された写真（絵葉書）をご紹介します。一目見て、千代田区内のどこなのかお分かりになるでしょうか。



これは、九段坂上から神保町～駿河台方面を眺めた景色です。手前の水辺は牛ヶ淵(皇居の堀)で、現在は昭和館や九段会館が建っています。

手前に写る大きな筒は、日露戦争の戦利品として満洲（現在の中国東北部）の沙河から持ち帰った東清鉄道の給水タンクの一部で、明治39年（1906）に靖国神社附属地だった牛が淵沿いの土地に設置されました。

給水タンクのすぐ前を通る道が現在の東京都道401号線（内堀通り）です。今は交通量の多い幹線ですが、写真には小さな商店や休憩中の馬が写っており、のんびりした雰囲気でした。

平屋の木造住宅の間を斜めに走る道路が現在の靖国通りです。大正12年（1923）の関東大

震災後の帝都復興計画で拡張が行われる以前は、密集した家屋の間を通る道だったのです。

遠くに写るドームは駿河台のニコライ堂です。これは明治24年（1891）に竣工した初代のニコライ堂の姿です。ニコライ堂は大正12年（1923）の関東大震災で倒壊し、昭和4年（1929）復興工事が完了し現在の姿になりました。

こうしたことから、この写真は明治39年（1906）～大正12年（1923）の間に撮影されたことが分かります。

もし九段下付近へ行かれることがあれば、昭和館や田安門のあたりから神田方面を眺めてみて下さい。約100年前の景色がどのように変化したのかを実感できるでしょう。

（長谷川怜）



都営地下鉄 ●三田線「内幸町駅」徒歩3分
東京メトロ ●千代田線
●日比谷線
●丸ノ内線 「霞ヶ関駅」徒歩5分

駐車場 当施設に駐車場はありません。

開館時間 月～金 午前10:00～午後10:00
土 午前10:00～午後7:00
日・祝 午前10:00～午後5:00
文化財事務局 月～金 午前10:00～午後6:00
※企画展・特別展の観覧時間は異なる場合があります。
休館日 毎月第3月曜日
年末年始（12月29日～1月3日）
特別整理期間

文化財ニュース 第14号 (2,000部)

発行日 平成30年3月30日
編集・発行 千代田区立日比谷図書文化館 文化財事務局
〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4
TEL:03-3502-3348 FAX:03-3502-3361
HP: <http://edo-chiyoda.jp>
e-mail: bunkashinkou@city.chiyoda.lg.jp

印刷 能登印刷株式会社

文化財
ニュース

14 2018



平成29年（2017）9月19日から11月19日にかけて、松江城歴史的価値発信事業実行委員会（松江市・島根県）・千代田区共催、千代田区観光協会後援で共同企画特別展「松江城と江戸城―国宝になった城と天下人の城―」を開催しました。千代田区と他の自治体とが連携した特別展示は、初めてのケースです。

本展では、最古級の江戸城図であることが判明した「江戸始図」（松江歴史館蔵）をはじめ、「慶長江戸図」・「別本慶長江戸図」（都立中央図書館蔵）や江戸城跡からの出土品などを一堂に展示し、家康が目指した江戸城の姿を紐解くとともに平和の世が到来し政治の場として推移する江戸城に迫りました。また、国宝になった松江城やその城下町形成について、松江の礎を築いた堀尾家の事蹟をたどりながら展示しました。松江歴史館からは「松江城天守雛形」などの貴重な資料が出展され、同時期に築城・改修された2つの城を対比しながら見られる展示となりました。

本展は新聞、テレビ、ラジオなど各種メディアでも取り上げられ、61日間の会期中に過去最高となる20,155名のお客様にご来場いただきました。

共同企画特別展
「松江城と江戸城
―国宝になった城と天下人の城―」
に2万人を超す方が来場



「松江城と江戸城―国宝になった城と天下人の城―」

入場者数・関連事業参加者数

会期中の入場者数は 20,155 名でした。また、関連講座を 5 回、江戸城登城ウォークを 2 回、展示解説を 5 回行いました。各回とも多くの方々にご参加いただき盛況でした。

熊本城復旧支援募金

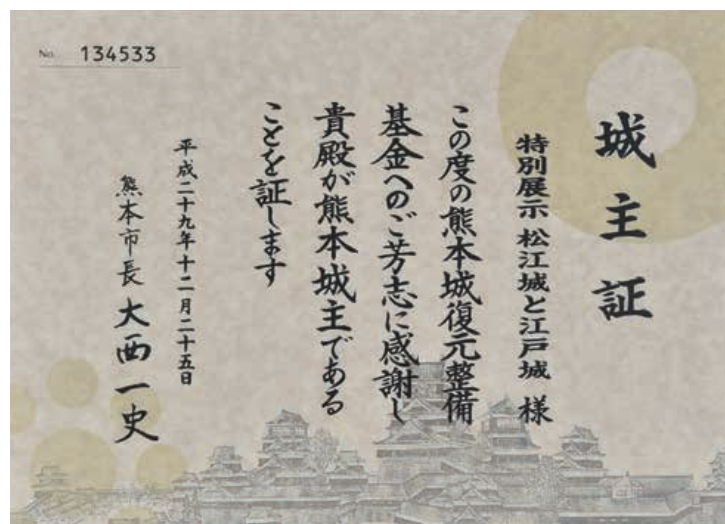
展示室には、平成 28 年 4 月 14 日・16 日に発生した熊本地震によって被災した熊本城の文化財復旧支援のための募金箱を設置しました。

会期中、19 万 7,735 円が集まりました。

募金は熊本城復元整備基金に寄付いたしました。ご協力ありがとうございました。



「江戸始図」(松江歴史館蔵)



熊本城主証



オープニングセレモニーのテープカット



特別展示室内での解説

特別展図録

今回の特別展の内容を詳細に解説した図録は、千代田区立日比谷図書文化館 1 階のショップと区役所 2 階情報コーナーにて販売しています。 1 冊 400 円(税込み)

関連講座・江戸城登城ウォーク

10月10日(火)

「江戸時代初期の江戸城と大名屋敷」

講師：後藤宏樹(文化財事務室学芸員)

区内の大名屋敷跡や江戸城の発掘に携わった経験も踏まえ、大名屋敷の構造や出土遺物、また江戸城築城の歴史などを詳細に説明し、より深く展示を楽しむことができる内容の講座となりました。

10月23日(月)

「江戸城本丸御殿の建築」

講師：小粥祐子氏(東京都公文書館専門員)

江戸城本丸御殿の建築や内装について、図面など様々な資料を活用し、当時の儀礼や建物の構造などに関するエピソードも交えながら解説しました。有名な松の廊下を再現した CG により当時の江戸城内の雰囲気を生き生きと感ずることができました。

11月5日(日)

「松江城天守と雛形」

講師：山田由香里氏(長崎総合科学大学教授)

国宝になった松江城天守の構造や建築について、江戸時代に製作された天守の雛形など様々な資料から解き明かしました。全国に残るその他の城の雛形との比較や、天守の修理において雛形が重要な役割を担っていることなど幅広い観点から解説が行われました。



関連講座会場(11月12日)



江戸城登城ウォーク(天守台前)



江戸城登城ウォーク(桜田門前)

11月12日(日)

「家康の江戸城―「江戸始図」の歴史的意義」

講師：千田嘉博氏(奈良大学教授)

信長や秀吉の時代から江戸時代に至る城の変遷をたどり、さらに「江戸始図」を読み解くことで家康が作り上げた江戸城がそれまでの城郭の技術を集大成したものであったことが明らかにされました。

11月17日(金)

「江戸の武家地景観―江戸図屏風をよむ」

講師：波多野純氏(日本工業大学名誉教授)

江戸図屏風に描かれた武家屋敷の構造に関する分析、江戸の街を造った大工たちのこと、江戸期の景観復元など多様な内容を非常に多くの画像から読み解き、江戸の街並みや建築について新たな知見を提供する内容となりました。

11月3日(金・祝)、4日(土)

江戸城登城ウォーク

江戸城築城の歴史や石垣、城門などについて文化財事務室学芸員の解説を聴きながら皇居外苑と東御苑一帯を散策しました。